



第九回 飯田市地域史研究集会 を開催しました



大門正克さんの講演

「戦後復興と高度成長を生きる—移動と暮らしの視点から—」

映像とオーラルから 生きた証を掘り起こす —現代史への試み—

8月27・28日の2日間開催され、特集「戦後復興から高度成長へ—飯田・下伊那の経験—」として2つの講演、映画上映と報告が行われました。ロビーでは「飯田駅をめぐる写真と証言から」と題するパネル展示、また3つの図書館を会場に協賛企画「地場産業と観光からみる高度成長」「高度成長期を生きた女性たち」「野底山の森林と暮らし」の資料展示が行われました。特集として初めて現代史を取り上げましたが、写真・映像と文集・証言から経験をたどることになった今回の特集からは多くの示唆を与えられたのではないのでしょうか。

特集

「戦後復興から高度成長へ—飯田・下伊那の経験—」

1日目は森武磨顧問研究員の趣旨説明のあと、横浜国立大学教授大門正克さんが暮らしと移動の視点から写真と女性・子どもたちの作文を素材にご講演されました。女性と子ども、在日と沖縄の視点から話され、生きた証を掘り起こすことが研究者の課題であるという言葉が印象に残りました。「軍国少年」から教員として戦後復興と高度成長を経験された小林恭之助さんは、子どもと教師の目線から見た時代の大きな転換期と教育についてご講演されました。参加者から誠実で率直な語りに感銘したという感想が寄せられました。

2日目の午前、信州大学准教授大串潤児さんが、映画「ひとりの母の記録」（1955年）の上映のあと映画製作と山吹村との関わりや、映画史上問題となった記録映画と現実との関係について地元史料と証言をもとに報告されました。また宮下道彦さんは映画製作にも直接関わった父宮下功さんと1950年代の山吹村について詳細にコメントされました。



大串潤児さん（手前）の報告に
コメントする宮下道彦さん

研究報告

2日目の午後からは研究報告が行われました。まず特集に関連して飯田市復興のシンボルであるりんご並木について飯田東中学校の田中清一教諭と生徒の皆さんが報告。長野原歴史研究会は小林文次郎氏の史料をもとに長野原地区の養蚕の報告。伊坪達郎調査研究員は詳細な史料分析により近世飯田藩領における「振商札」について、北村安裕研究員は信濃の牧に関する文献史料から地方豪族に代わって国司の権限が拡大してゆく時代について報告しました。



ロビー展示「飯田駅をめぐる写真と証言から」と書籍売場

刊行案内

昨年度の第8回飯田市地域史研究集会シンポジウム「城下町飯田」の記録と、地域史研究の成果を掲載しています。

飯田市歴史研究所 年報 9

特集 城下町飯田

フランソワ＝ジョゼフ・ルッジウ 君侯の都市
吉田伸之 城下町飯田の性格を考える

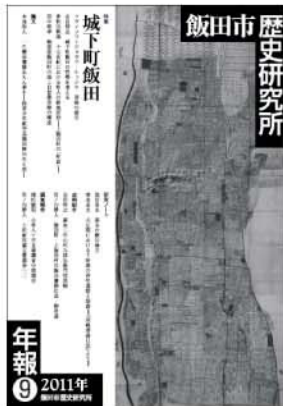
小特集 飯田・上飯田－近世から近代へ－
多和田雅保 十七世紀における町人の耕地所持
－上飯田村の「町貫」－

田中雅孝 戦前期飯田町の商工自営業者層の構成
論文

本島和人 一生懸命奮闘あらん事を
－陸軍少年航空兵篠田隆の生と死－

研究ノート

池田勇太 幕末の飯田藩主
清水迪夫 大正期における下伊那の青年運動と読書
－『胡桃澤盛日記』より－



飯田市歴史研究所 編
B5判・286頁
定価 1,800円

2011年10月上旬発行

飯田アカデミア 2011

第64講座 さとう まこと
講師 佐藤 信さん
(東京大学大学院教授)

テーマ 信濃と東国をめぐる古代史
概要

日本列島の古代史は、今日まで伝わる文献史料に制約されて中央の政権や貴族を中心に描かれてきたが、最近の各地における発掘調査成果や木簡など出土文字資料の出現によって、列島各地域の古代史像が具体的に明らかになってきた。信濃と東国は、倭の王権や日本律令国家にとって重要な基盤となる地域であったとされるが、その古代史はどのような交流のもとで、また独自性をもって展開したのだろうか。遺跡・遺物など様々な歴史資料に注目しながら、信濃の古代史にせまってみよう。

日程

11月12日(土) 13:30~17:00
1 古代東山道の解明
2 地方豪族と王権のつながり

11月13日(日) 10:00~14:30
3 国府・郡家の古代史
4 地域と列島の古代史

※1コマ90分。1日のみ、または、1コマの聴講も可能です。

受講料 500円(資料代)

会場 上郷考古博物館1階会議室
(飯田市上郷別府2428-1)

どなたでも受講できます。
多くの方のご参加をお待ちしております。

◇お申込み・お問い合わせは、
電話・FAXまたはE-mailで飯田市
歴史研究所へお申し出ください。

諸事情により日程等、掲載内容が変更になる場合があります。
す。随時、ホームページ・市広報等でお知らせいたします。



2011年度 飯田歴研賞受賞

論文賞「明治30年代前半における農村青年会の歴史的位置」の執筆者瀬川 大さんから受賞のコメントをいただきました。

この度は誠にありがとうございます。
飯田・下伊那の青年運動といえば、大正期のいわゆる自主化運動が有名です。しかし、それより20年前の明治30年代

に、既に全郡規模で下伊那青年会が組織され、活躍していました。本論文は、下伊那青年会の草創期における性格や活動を通して、当時の飯伊の青年たちが行おうとした自己形成のあり方を探ろうとしました。今後は青年会の全体像を明らかにし、あわせて青年たちが求めていたものをより深く追求していきたいと考えています。

これまでお世話になった方々に改めて感謝申し上げます。今後も研究成果を還元していく所存です。



『飯田・上飯田の歴史』(仮題) 刊行事業より

古地図でわかる地域の様子
(丸山・東野)

「信濃国伊那郡上飯田村田畑山林地引絵図」は明治初年に描かれた、上飯田村の様子を示す三枚組の地図です。その三枚目に、中山道(現丸山)と東野が描かれています。これを読み解くことで、江戸時代末期の地域の様子が詳しくわかります。



中山道でいえば、大平街道からわかれた道が、今宮郊戸八幡宮までまっすぐ、王竜寺川(押洞川)に沿って太い赤線で描かれていて、地域の主要道路だったことがうかがえます。道の両側は畑地が多く、それにまじって屋敷がたくさん描きこまれています。当時ここが中山道の集落の中心となっていたと考えられます。東野は、上段の水田地帯(宮の上あたり)と下段(浜井場から江戸浜町のあたり)の畑作地帯からなります。下段のあたりも当時は東野でした。絵図によれば、宮の上には、野底川から取り入れた大井を中心に水路が葉脈状にひろがり、水田を潤していました。大井の取水口付近にはため池(柏原堤)が色濃く描かれています。一方、下段の畑作地帯をみると、一帯を貫いて道路がまっすぐ通っています。この道路は現在でもほぼ完全に残っており、浜井場小学校のあたりから小伝馬橋の交差点を越えて、富士山稲荷神社の前へと至っています。現在では飯田警察署前の交差点から小伝馬町を通る道と、江戸町からまっすぐ抜けて加賀沢橋に至る道が主力道路となっていますが、当時はまだなかったのです。【多和田雅保】

定例研究会

(1) 10月 8日 (土) ※歴研ニュースNo.53参照

(2) 10月29日 (土)

部落有財産不統一町村の展開と帰結
— 近現代の飯田・下伊那を事例に —

報告者：坂口 正彦 (客員研究員)

時 間：14:00～16:00

場 所：歴史研究所 研修室

地域史講座 飯田・上飯田の歴史

11月26日 (土) 14:00～16:00

天明の飢饉から天保の飢饉へ
～ 御救いと備え～

講師：伊坪 達郎 (調査研究員)

場所：丸山公民館

飢饉時の飯田町の施金施米の様子を紹介
します。また設置された備荒郷蔵が、飢饉
時に役立ったことも紹介します。



第4回 歴史学オリエンテーションを開催しました

夏は海より山より歴研でしょ



暑さまっさかりの7月30日、恒例の歴史学オリエンテーションを行いました。生の歴史資料や大学での歴史講義にふれる中で、歴史をもっと身近に感じてもらう、というイベントです。4回目となる今年のテーマは、歴史のワonder。高校生から一般まで20名近い方々に参加いただきました。まず、新任の北村安裕研究員が歴史を好きになったきっかけや、これからの研究への熱い思いを語りました。竹ノ内雅人研究員は、まだ公開されていないビジュアル史料をネタにして、幕末の飯田藩と江戸のつながりをひも解きました。爆笑ものの船の画が、実は1人の男の悲しい運命につながっていくなんて…。参加した皆さんも興味津々の様子でした。ここで趣向を変えて、池田勇太研究員による所内案内。研究所に持ち込まれた史料がどんな風に調査され、公開されていくのか軽妙なトークとともにお届けしました。つづいて東京大学の佐藤信先生が「日本の古代国家と地方豪族」という題で体験講義をしました。高校生にはちょっと難しかったかもしれないけれど、大学の授業の魅力は十二分に伝わったようです。なかなか見ることのできない古代の木簡もサプライズ公開されました。参加した高校生からは、

☆目録を作っているところや、貴重な史料の保管の様子など、普通では見られないものを見られて良かった。

☆歴史は好きなのですが、この地域の事はあまり知らなかったし、凄く貴重な体験ができて良かったです。大学の先生の話もとてもすばらしかったです。

☆普通に授業を受けていても知る事のできないことなど、とても勉強になるお話が聞けて良かったです。進路選択の参考にもなりました。など、うれしいコメントをいただきました。来年もお楽しみに！



下巻 近代と現代

被災から復興へ

今年^{ひつじ}は三六災害から50年。慰霊と記憶のための催しが開かれ、特集が組まれました。3.11東日本大震災と原発事故の被災地の現在が、50年前の災害と1947年の飯田大火の記憶を強く意識させます。また、新聞記事を読んでゆくと現在と当時の違いが見えてきます。

大火からの復興に一区切りついた1954年に復興祭。2年後には座光寺、松尾、伊賀良など7か村と合併、新飯田市が誕生。「もはや戦後ではない」といわれた1956年のことです。1960年、岸内閣に代わった池田内閣が所得倍増政策を表明します。この年飯田市では寄付をもとに市民プールを建設、1953年開園の動物園とともにおいに賑わいました。岸内閣総辞職の7月15日、中央道法が成立し、地元紙はこれをトップで大きく伝えてあります。その1年後に飯田・下伊那は1715年の未満水以来の大水害に見舞われました。

しかし、戦後復興と高度成長初期にあって、救援と支援を受けて、飯田・下伊那は復興を遂げ、1975年には中央自動車道が開通し、大きく変貌してゆくことになりました。【本島和人】

「南信州」1960年7月17日付



近世史ゼミ 担当 竹ノ内研究員 ■開催日 10月4日/10月18日 11月1日/11月15日 (12月6日予定) ■時間 19:00～20:40 ■場所 歴史研究所研修室	思想史ゼミ 担当 池田研究員 ■開催日 10月5日/10月19日 11月2日/11月16日 (12月7日予定) ■時間 19:00～20:40 ■場所 歴史研究所研修室	近現代史ゼミ 担当 田中調査研究員 ■開催日 10月 8日/10月22日 11月12日/11月26日 (12月10日予定) ■時間 17:00～18:40 ■場所 歴史研究所研修室
満州移民研究ゼミ 担当 本島調査研究員 ■開催日 10月1日/11月5日/ (12月10日予定) ■時間 10:00～11:40 ■場所 上郷公民館103号室	建築史ワークショップ 担当 金澤客員研究員 ■開催日 10月11日/11月8日/ (12月13日予定) ■時間 19:00～20:40 ■場所 歴史研究所研修室	

歴研日誌

8月

- 7/31-6日 天草市夏期史料調査自主研修 (池田・竹ノ内研究員)
- 2日 歴研ニュース53号発行
- 2-4日 職場体験実習受け入れ (飯田西中学校2年生)
- 6日 近現代史ゼミ
文献購読「今井清一『日本の百年(6)震災にゆらぐ』」
- 7日 建築史ワークショップ「阿智村駒場宿見学会」
- 8-10日 飯田科研座光寺小学校史料調査
- 9-10日 『飯田・上飯田の歴史』(仮題) 下巻 長野県立歴史館調査
- 9日 近世史ゼミ「大平の発展(指上申口上書之事)」
- 10日 思想史ゼミ「日高六郎編『戦後思想の出発』(10)」
- 11-13日 横浜国立大学多和田ゼミ生研修
- 11日 「第9回飯田市地域史研究集会」事前勉強会
- 14日 「第23回平和のための信州・戦争展」講演
一池田勇太研究員〔鼎文化センター〕
- 19-21日 第39回古代史サマーセミナー参加
(北村研究員)〔京都市〕
- 20日 満州移民研究ゼミ「宮下功『満洲紀行』を読む3」
〔上郷公民館〕
- 22-23日 「子どもと教科書全国ネット21」一行研修講義
「満州移民と長野県」一本島和人調査研究員
「下伊那における青少年義勇軍」一齊藤俊江客員研究員
〔りんご庁舎〕
- 27-28日 第9回飯田市地域史研究集会
特集「戦後復興から高度成長へー飯田・下伊那の経験ー」
(1日目) 研究員会議・歴研賞授賞式・特集講演
(2日目) 報告・研究報告・ミニコンサート〔飯田信用金庫〕
- 29日 『飯田・上飯田の歴史』(仮題) 下巻研究会 (丸山公民館)
- 30-9/1日 職場体験実習受け入れ (旭ヶ丘中学校2年生)
- 30日 近世史ゼミ「大平の発展(為取替申一札之事)」
- 31日 建築史ワークショップ「橋南町並み見学会」

9月

- 6日 近世史ゼミ「近世後期のお練り祭り改革案」
- 7-9日 法政大学 第2回飯田ブレ研修
- 7-8日 法政大学飯田ブレ研修 所内案内と講演
「満州移民と飯田下伊那一行政史料と聞き書きから」一本島和人調査研究員
- 7-8日 篠田隆氏文書再調査 (本島調査研究員)
- 7日 思想史ゼミ「堀田善衛「流血」」
- 10日 近現代史ゼミ
「大正13年3月4月の南信新聞と胡桃澤日記」
- 10日 満州移民研究ゼミ
「宮下功『満洲紀行』を読む4」〔上郷公民館〕
- 10日 下伊那高校社会科学研究会講演
「武家支配の終焉」
一池田勇太研究員〔飯田工業高校〕
- 13日 建築史ワークショップ
「橋南の歴史的建造物」
- 13-16日 東京大学日本史学研究室 清内路調査合宿
- 16日 東京大学日本史学研究室 所内見学
- 16日 平和資料収集委員会プロジェクト会議出席
(池田研究員・本島調査研究員)
〔教育委員会〕
- 20日 長野県立歴史館 企画展史料調査
- 20日 近世史ゼミ「寺社と興行」
- 21日 思想史ゼミ「堀田善衛(2)」
- 24日 近現代史ゼミ
「田中雅孝調査研究員による研究報告」
- 28日 地域史講座 飯田・上飯田の歴史シリーズ8
「飯田市民プール建設と市民生活」
一本島和人調査研究員〔東野公民館〕

催事スケジュール

日	月	火	水	木	金	土	
10月						10/1	NL54発行 満州
2	3	4	5	6	7	8	定例研究会 近現
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	近現
23	24	25	26	27	28	29	定例研究会
30	31						下巻研究会
11月						11/1	満州
6	7	8	9	10	11	12	64thアカデミア 1日目 近現
13	14	15	16	17	18	19	64thアカデミア 2日目
20	21	22	23	24	25	26	地域紙講座 近現
27	28	29	30				

- 近世 近世史ゼミ
- 思想 思想史ゼミ
- 近現 近現代史ゼミ
- 満州 満州移民研究ゼミ
- 建築 建築史ワークショップ

開所時間 午前9時～午後5時

休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日

開所日

休所日